

2年ぶりの対面授業に向けて

ペルーでは2021年度も政府令により対面授業再開は見送りとなりました。中南米の日本人学校ではリマだけが完全オンライン授業という状況でした。子ども達の体力低下、友達とのコミュニケーション不足が常に課題でしたが、なんとかオンラインで教育課程を実施し、1年が終わろうとしています。子ども達はICT教育の面ではとても高い力をつけました。一方、集団生活や友達とのかかわりの中で身に着けるコミュニケーション力育成についてはオンラインではどうしても限りがあり、学校再開後の大きな柱となりそうです。

ようやく4月から対面授業が認められ、再開準備を進めています。ペルー政府の感染防止対策に基づいた校舎内の掲示物、机等の配置、教育課程の見直しを進める中で少しずつ学校が再び動き出す実感が出てきました。2年間で派遣教員が入れ替わり、コロナ以前の通常の学校を知っているのは私を含めた3名の教員だけ。帰国が迫る中、引き継ぎ作業に追われる毎日ですが、学校に子ども達が戻る日が近づいてきたことがとてもうれしいです。リマ日本人学校での教員生活はオンラインのまま終了しますが、4月から子ども達が元気に登校できることを楽しみに、最後まで力を尽くしたいと思います。

ペルーのワクチン事情



ペルーでのワクチン接種はスペイン語で Pongo el hombro (腕を出そう、肩を組もうという2つの意味を持つ言葉)というスローガンで昨年4月から始まりました。高齢者グループから徐々に年齢が下がり、私も8月、9月、1月と3回の接種を完了しました。現在は5歳以上の子どもも対象となっています。公共施設や商業施設、国内線航空機などの利用にもワクチン接種が条件となっており、国民への接種を促しています。

ドライブスルー方式のワクチン接種会場

駐夫からの一言

配偶者同行休業制度を使ってペルーに来た夫からのメッセージ

『駐夫の反省文』 家事や子育てを妻に任せっきりだった自分が専業主夫として過ごした3年間。主婦・共働きに対する感じ方が変わったように思います。専業「しゅふ」って、思った以上に自分の時間を確保するのが難しいのだと知りました。共働きで家事・子育てをするのなら言わずもがな。世の中のお母さんたちが、これを当たり前のようにこなしている事は実は凄いことだし、そもそも家事・子育てが妻・母親の役割だというイメージを自分自身も無意識に持ってしまっていたことに気づきました。幸か不幸かそんな事を感じてしまった自分が帰国後にどんな生活をするのか、いまいち想像がつきませんが、ペルー仕込みの家事スキルを錆び付かせないように頑張ります。